

MACC^{マック}通信

Monozukuri Arakawa City Cluster

第49号

2019年6月30日発行

《主な内容》

- ・「デザイナーとの協働で生まれた桐山製作所の新商品が、ミラノデザインウィークでお披露目」
- ・MACCプロジェクト発 新商品紹介
- ・新会員紹介!! ((株)ミライ)
- ・連載:「知財経営のすすめ Vol.5 -取引先からの仕事の依頼で注意すべきこと-

荒川区が進める『MACCプロジェクト』は、荒川区の特徴である多彩な産業集積を生かした、区内企業同士の顔の見えるネットワークの形成を推進することによって、荒川区の産業振興を図るものです。

「MACC通信」では、この『MACCプロジェクト』に関わるホットな情報をお届けします。

デザイナーとの協働で生まれた桐山製作所の新商品が、ミラノデザインウィークでお披露目

理化学用実験ガラス製造業の有限会社桐山製作所(東日暮里2-31-11、桐山時男社長)が、ジャパンリエイティブから2019年のマニファクチュアに選ばれ、アムステルダムを拠点とするイタリア人デザイナー2人(フォルマファンタズマ)とコラボレーションして、個性的な新商品が生まれました。

ジャパンリエイティブは、日本の美意識を育んできたものづくりの精神とそれを支える創造性を、国内外に発信する活動を行っている組織です。その中核となるのは、国内のマニファクチュアと世界的に活躍するデザイナーを繋ぎ、ものづくりを行うプロジェクトです。2011年の活動スタート以降、毎年世界各地でその成果を発表されています。

製作においては、イタリア人デザイナーのお二人が桐山製作所を訪れ、桐山社長や職人たちとアイデアを出し合い、帰国後は、ディテ



ールの形状や細かいおさまりを実現させるために、試行錯誤を重ね、ジャパンリエイティブの田淵智也氏のサポートのもと、作品が完成しました。

理化学用実験ガラスは、ホウケイ酸ガラスを用い、耐久性や精密さはもちろん、実験の目的に応じた形状と機能が求められます。そこで培われた、切る、曲げる、つなぐ、といったガラス細工の技術を日常使いのプロダクトへと展開を試みた今回のプロジェクト。その作品が、4月9日(火)~14日(日)にミラノデザインウィークで開催された「THE LITTA VARIATIONS OPUS 5」(リッタ宮殿の博覧会)で展示

されました。

展示においては、ジャパンクリエイティブのパートナーであるインテリアデザイナー、照明デザイナー、フォトグラファー、グラフィックデザイナーの皆さんが、技術の特徴を伝えるにはどうしたらよいか、作品の本質を見せるためにはどうしたらよいか等、検討を重ね、LEDのラインライトとバッテリーを内蔵させた什器で動きのある配置を実現し、右の写真のような空間構成を創りました。この照明の効果で、展示品のガラスの偏光が際立ち、空間の統一感が生まれ、例年以上に写真撮影される来場者が多く見られ、床に配線の出ない什器計画も功を奏し、美しい空間とスムーズな動線を生み出しました。会場では、「美しい」「欲しい」といった声が多く聞かれ、販売の有無や発売時期の問い合わせがあったそうです。



手前が桐山製作所の作品

製作に携わった桐山製作所も現地に赴き、展覧会の成功を見届けました。期間中には、約5万人が来訪し、展覧会は盛況のうちに終了しました。



一番奥の作品は、桐山製作所の既存の製品と、同社の職人が技術の訓練のために制作するオブジェを組み合わせた作品。

(写真: 大谷宗平(ナカサ&パートナーズ) 情報提供: ジャパンクリエイティブ)

MACCプロジェクト発 新商品紹介！！

このコーナーでは、MACC発新商品を紹介していきます。今回は、新たに“MACC発新商品”に認定された株式会社アートランドの「升次郎[®]」と、旭工業株式会社の「楽てく[®](らてく)」の2つを取り上げます。

升次郎[®]

開発企業：株式会社アートランド（所在地：東日暮里2-7-1TEL：03-3806-8846）

【製品紹介】

「升次郎[®]」は、経済産業省から指定された日本の伝統的工芸技術でつくる、銀に近い光沢をもつ錫製の升です。古来より日本人になじみ深い「升」を金属素材で開発しました。

東京都ビジネスデザインアワードでテーマ賞を受賞したことが開発のきっかけとなりました。その後、商品化のために様々な工夫を重ね、金属ゆえの重さを軽減するために中空構造として軽量化を図りました。また、

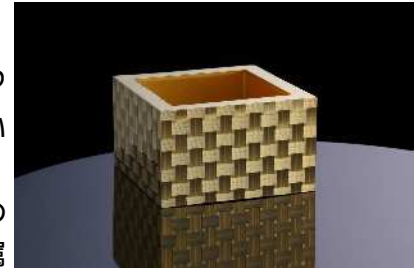


漆 調

側面には、日本的模様こだわりました。製品の外観は“市松模様”をダイヤカットしたり、漆調の塗装や全体に金メッキを施したりして、一つ一つに特長を持たせています。

東京都知事より経営革新計画に認定された後、販売前に「升次郎[®]」の商標登録も済ませました。（商標第5941486号）

大切な方への贈り物として、親しい方への記念のお品として、とっておきの日の終わりに至極のお酒を嗜む酒器としてとして平成29年に販売を開始。その後、平成30年の夏には、「益々繁盛の升」として神戸の百貨店で販売したところ大ヒットとなり、その後も順調に販売を伸ばしています。



市松模様

楽てく[®](らてく)

開発企業：旭工業株式会社（所在地：西尾久7-58-5 TEL：3893-3029）

<https://www.a-ratek.com/>

【製品紹介】

本製品は、歩行補助具のコンセプトから、車軸、ブレーキ機構、杖丈調整機構を自社開発し生産性、耐久性、安全性、利便性を高めた商品で、タイヤを転がして手すりにつかまっているような感覚で歩ける、新しい歩行サポートツールです。

平成24年度に既にMACC製品として認定されている「フェレット」の製造を、板垣製作

所から受け継いで販売をしていました。しかし、生産性、耐久性、安全性、利便性の面で量産に向かないため、様々な課題をクリアする製品として新規開発を行ったものです。今年度からは積極的に展示会等にも出展し、上期30台程度の販売実績があります。

新規開発部分は、接地面に対して傾斜を設けた車軸構造(八の字)とスイング機構で走破性を高め、また、利用者の身長に合わせた杖丈の調整機構で、利便性も高めています。

さらに、後輪ブレーキ機構を再設計(特許出願済)して、より安全な商品となっています。軸の部分に絵柄をプリントすることにより、顧客ニーズに広く答えることができる商品ラインアップも実現しています。

NHK「おはよう日本」で紹介されてからは引き合いが多く、福祉関係業者、ネット販売業者及び大都市家電量販店において販売が決定しています。



「サンアス会活動報告」



2019年度のサンアス会は、メンバーそれぞれの課題をテーマとして選定し、課題解決型の会を、隔月(奇数月)に開催します。女性メンバーならではの都合を考慮し、サンアス会は、10時～12時に開催しています。

2019年度第1回目のサンアス会は、5月23日(木)に、セントラル荒川ビル4階の産業経済部研修室で開催しました。



年度最初の会ということで、メンバー企業が毎年利用いただいている、荒川区の支援メニューの紹介からスタートしました。これまでは「荒川区の企業支援メニュー」はリーフレットでしたが、今年は冊子にバージョンアップし、見やすくなったと好評でした。

今月のテーマは「販路開拓」でした。メンバーから自社の状況や課題と解決に向けての取り組みを発表していただき、売上向上を目指して、どう販路を拡大して(顧客を増やして)いくかを、掘り下げていきます。トップバッターは、能田電機工業(株)の井上社長で、建設業ならではの状況や課題が出され、他のメンバーから様々な意見が出ました。次回の7月の例会も同じテーマで行います。



MACCプロジェクト新会員紹介！！

このコーナーでは、今年度新たにMACC会員となられた企業を紹介していきます。今後の展望やMACCプロジェクトに期待することなどをそれぞれ伺ってみました。

さらに元気な企業となって、共に魅力ある新商品・新技術開発を目指して頑張ってください。

✦ ミライ株式会社 ✦

(荒川区南千住1-32-12-703 <http://mirai.life/>)

・平成31年2月入会 ・創業 平成29年 ・資本金 300万円

ミライ(株)は、従業員数1名のコンサルタント会社で、主に経営コンサルタントとして企業の創業支援(起業や財務改善)や新商品開発(イノベーション系)を中心に活動を行っています。

今後の展望は「“インターネットを活用したエンディングノート”という新たなサービスを提供することにより、時代にマッチした終活関連のサービス提供で、シニア世代が安心して暮らせる世の中を実現させたい。」

またMACCプロジェクトには「荒川区の様々な製造業の得意分野を集めたコラボレーション商品開発や製品販売など、横の連携で、人と人・企業と企業をつなぐハブの役割を担ってもらいたい。」と期待を寄せています。



代表取締役社長
内田 明宏 氏

知財経営のすすめ Vol.5 -取引先からの仕事の依頼で注意すべきこと-

これまで知財経営の基礎についてご説明してきました。知財経営については、経営や事業に知財を活かすという観点から、

自分は何者であるか知る

自分の強みを活かす

顧客の立場から自分の強みを考える

知財情報へアクセスし自分の強みを深堀りする

といった取り組み方を学んできました。

今回からは、事例をもとに更に知財経営のポイントを述べて参りたいと思います。

取引先からある仕事の依頼があったとします。取引先の競合他社の見本や設計図面等を見せられ、これと同じような製品を作れるか、可能ならその製品よりコストダウンができるかという依頼内容です。このような仕事の依頼があった時にその仕事を受けることは知的財産の観点から何か問題が生ずるでしょうか？皆さんならどのように対応したら良いか考えてください。

製品開発技術、製品デザイン、製品ネーミング等の様々な創意工夫の成果が知的財産となり、一定の条件をクリアしたものが法的に保護されて知的財産権となります。

【産業財産権とは】



図出所：
特許庁ウェブサイト <https://www.jpo.go.jp/system/patent/gaiyo/seidogaiyo/chizai01.html>

左記の図のとおり、製品には複数の知的財産権で保護されている可能性があります。製品技術については「特許権」や「実用新案権」、物品の外観デザインは「意匠権」、商品出所の目印は「商標権」が対象となります。製品の知的財産を把握するには多面的な視点が必要です。

上記のような仕事の依頼があった場合は、仮に競合他社と同じような製品が作れるとしても、他人の知的財産権を侵害しないかどうか考える必要があります。具体的には、取引先より見せられた競合他社の見本等が技術的またはデザインの的に保護されているかどうか確認します。最低限、技術を保護する「特許権」や製品デザインを保護する「意匠権」が保護されているかどうかについて取引先に確認する必要があります。取引先が調べてくれなければ、特許情報プラットフォームを使い自分で調べてください。

一般的な技術によって作られていると思われる製品であったとしても、特許権や意匠権で保護されていることも意外と多いものです。権利で保護されている製品を製造することは、権利侵害となり法的な責任を負うことにつながります。特許権や意匠権の存在を知らなかったといっても免責されません。

このような仕事の依頼があった際は、まず他人の知的財産権があるかどうか、侵害しないかどうかを確認し、知的財産の取扱いについて取引先と協議をしないと思わぬ落とし穴が待っているかもしれません。その落とし穴に落ちないように日頃から知的財産について意識することが重要です。

著者略歴 押久保政彦（おしくぼまさひこ）

弁理士 / 知財経営コンサルタント / 1級知財管理技能士（特許、コンテンツ、ブランド）。

2005年 弁理士登録

2015年 博士（技術経営）学位取得

押久保政彦国際商標特許事務所 所長
関東経済産業局、特許庁事業 知財専門家



連載～その31～

牛山博文の 毛～ひと工夫！



MACCミドルコーディネータ
牛山博文

MACCプロジェクトでは4名のコーディネータによる、きめ細かい企業支援を行っています。

このコーナーでは、牛山コーディネータによる生産管理の事例やMACCコーディネータとしての活動報告等を、わかりやすく連載で皆様にお伝えしていきます。

「計画」と「統制」

なぜ計画が必要なのか？

「計画」はなぜ必要なのかということを考えてみましょう。例えば日常生活ではどうでしょう。皆さんは日常生活を送るために「計画」しているでしょうか？

例えば食事の場合はどうでしょう。お腹が空いたらなにか食べ物を食べればいいのでいちいち「計画」しなくても生きていけないことはなさそうに思います。

でも、いつでも欲しいときにすぐに食べ物が手にはいる環境で生活しているのならともかく、私たちは食べ物が必要なときにすぐに手に入れるように“何らかの行動”をする必要があります。

何らかの行動とは、常にいつでも食料や飲料を手に入れるために食品庫や冷蔵庫を用意して、この先に必要になると思われる食料・飲料などを選別して保存するということとなります。この行動は「計画」ということとなります。

生産活動においても「計画」をたてることはとても大切なこととなります。何かを生産するためには、材料や部品、設備などをあらかじめ準備してお

く必要があります。当然ながら生産を担う作業員も必要になります。このように、ものづくりにはおおがかりな準備が必要になり、「計画」は極めて重要です。

計画を行うための統制

さて、「計画」を立てればすべてうまく行くわけではありません。実行してみたら予想しない事で計画通りに行かないことが起こります。例えば材料や部品が予定どおりにはいってこないとか、作業員が病気になるとか、機械が故障したなどの様々なことが起こります。

計画通りに進まないと困りますから、常に計画通りに物事が進んでいるのかということを確認する必要がある出てきます。

もし、「計画」通りに進んでいなかったら、事故の影響が最も少なくなるように「計画」を「修正」しなければなりません。

このように「計画」を実行しながら「チェック」と「修正(計画の変更)」を行っていかねばならないことがわかります。この「チェック」と「修正」を行うこと、これが統制です。

経営では「計画」「実行」「チェック」「修正」を注意深く行うことが重要です。

ISOの世界でも有名なP(プラン)D(ドゥ)C(チェック)A(アクション)ですね！

東京荒川ロータリークラブ創立50周年記念講演 我が国の安全と防衛について



日時：令和元年7月23日(火) 16:30～18:00(16:00受付開始)
場所：日暮里サニーホール(荒川区東日暮里5-50-5 ホテルラングウッド4階)
費用：無料
講師：森本敏氏(拓殖大学総長・元防衛大臣(第11代))
締切：令和元年7月12日(金)

お申し込みは、会社名・参加者名・電話番号(会社)・FAX・E-mailをご記入の上、東京荒川ロータリークラブ事務局のFAX(03-3803-2834)までお申込みください。

MACCコーディネータ TOMMYの部屋 VOL.48



『荒川事業承継物語』



MACCシニアコーディネータ 豊泉光男

梅雨の季節になりました。皆様ご自愛ください。
新二アス会(日本の明日を生き抜く経営者の会)の例会で事業承継のお話をさせていただきました。実は事業承継のテーマに本格的に取り組むことになったのは20年以上前に遡ります。

トミーはご縁があって社長のバトンを受け取ったのが36才でした。その事例がメディアにも注目され、講演を依頼されることになり、真摯にEPS業界(1)の事業承継の研究に携わることになりました。

EPS業界の全国200社へのアンケート調査、現社長・後継者へのカウンセリング、また後継者育成課題として各社の未来経営計画の作成に奔走しました。

このおかげで親族内事業継承の課題も深掘りができました。結果、いくつもの事業承継のお手伝いをし、小冊子にまとめる事ができました。

同時にこの活動はEPS業界300社の事業承継を促進するという大きな副次効果を生むことになりました。全国を事業承継で訪問していく中で、EPS業界の「事業承継伝道師」と呼ばれるようになったことはとても誇りに思う体験でした。

そして現在、荒川区で事業承継のお手伝いができるのも何かのご縁と感じています。トミーは社長退任後、ライフワークとして、ファミリービジネス研究、相続研究、事業承継アドバイザー研修等を勉強してきました。昨年からは新たに事業承継支援に関して勉強をはじめました。事業承継支援研究会主催の月例会は欠かさず参加しています。

その中で、事業承継に関して、新たな指摘がありましたので、ご紹介いたします。今まで事業承継を推進するには現経営者の意志決定とステップを踏ん

だ事業承継計画作成が大切であると言われてきました。事実私も現経営者のカウンセリングに多くの時間を割いてきました。

しかし、今回の指摘は後継者が受け身では事業承継は成功しにくいという意見です。事業承継はバトンタッチして終わりではありません。後継者が事業を継続発展できて事業承継の成功と言えるのです。そのためには企業の経営革新ができる後継者が必要となりますが、生まれつきそのような後継者はいません。後継者育成には自らの意志と外部からの支援も欠かせません。後継者に必要な心・技・体について、述べさせていただきます。

- 1、「心」：困難を自ら乗り越える、本物の決意、覚悟。後継者としての自覚。
- 2、「技」：経営管理(技術・戦略・リーダーシップ・財務会計)のスキルと知識。
- 3、「体」：経営理念・行動規範・信頼・利他・真摯等の志と実践力。

後継者は両親から学校、企業、社会から多くを吸収し、自立した立派な経営者に成長していきます。それが企業を継続発展させていく成功のキーと言えます。今後も多くの自立・自主の後継者の創出を願ってやみません。これからも後継者の皆さんに心からエールを送り続けて筆を置きます。

1 発泡ポリスチレン(foamed polystyrene)業界



<発行> 荒川区産業経済部経営支援課産業活性化係 MACCプロジェクト事務局

〒116-8501 東京都荒川区荒川2-2-3 TEL:03-3802-4683 FAX:03-3803-2333

E-mail:macc@city.arakawa.tokyo.jp

登録番号(31)0001号